

2013年1月の東北地方の天候

【1月の特徴】

- 気温は低かった
- 東北太平洋側の日照時間はかなり多かった
- 東北太平洋側の降雪量は多かった

(1) 2013年1月の概況

この期間、冬型の気圧配置が続くことが多く、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。上旬、中旬を中心に寒気の影響を受けることが多く、気温は低くなった。また、東北太平洋側では、低気圧の影響をしばしば受け平地でも積雪となるなど、降雪量は多くなった。

月平均気温は低い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で104%と平年並、東北太平洋側で136%と多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。寒気に覆われ、気温はかなり低くなった。

1日から4日にかけては低気圧や前線の通過および冬型の気圧配置となったため、東北日本海側を中心に大雪となり、3日は青森県と福島県で日降雪量50cm以上の所があった。9日から10日にかけては強い冬型の気圧配置となったため、東北日本海側で大雪の所があった。

平均気温はかなり低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。

中旬：期間のはじめは冬型の気圧配置がゆるみ、低気圧と高気圧が交互に通過した。期間の中頃からは冬型の気圧配置が続いた。このため、東北日本海側では曇りや雪の日が続き、大雪となる日があった。東北太平洋側では晴れの日が多かった。一時、強い寒気が南下したため、気温は低くなった。

14日は本州の南を低気圧が発達しながら東進したため、東北南部を中心に平地でも大雪となった。18日は強い冬型の気圧配置となったため、各県で大雪の所があった。

平均気温は低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で多い。

下旬：期間のはじめは高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期間の中頃に低気圧が北日本を通過し各県で大雪となった。その後は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。

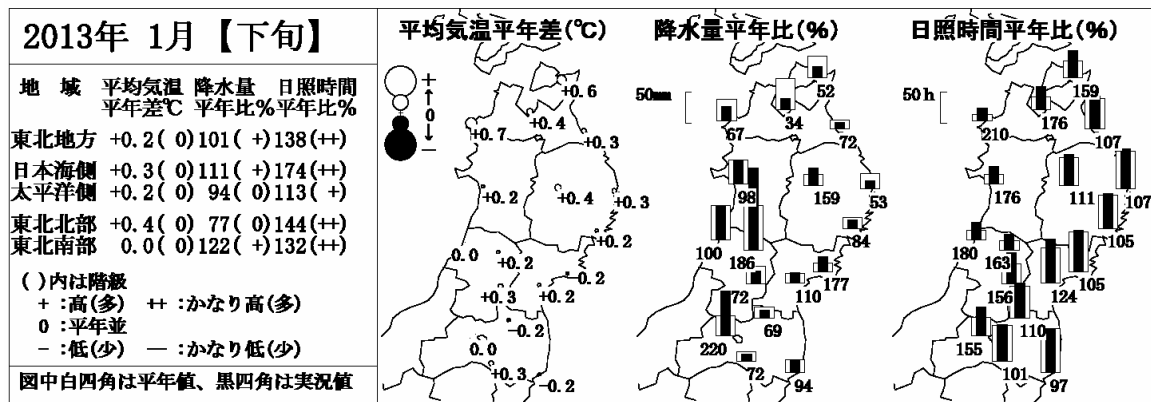
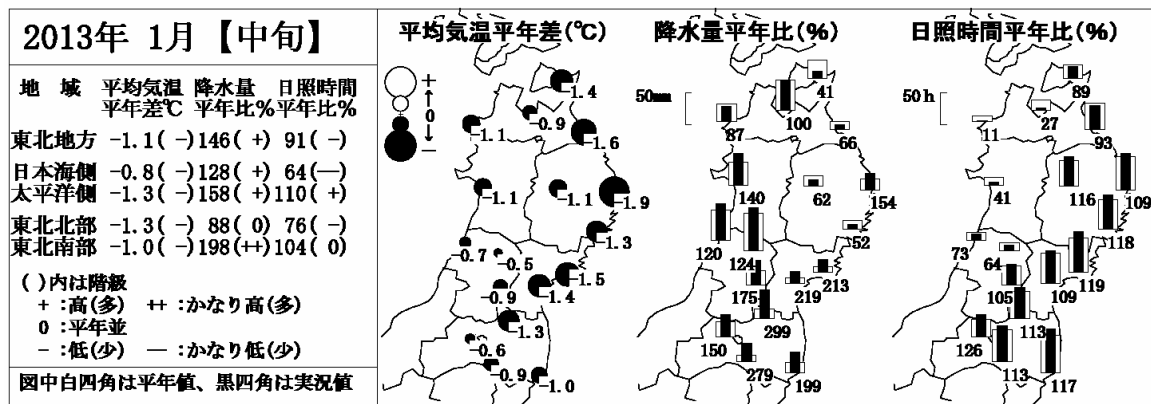
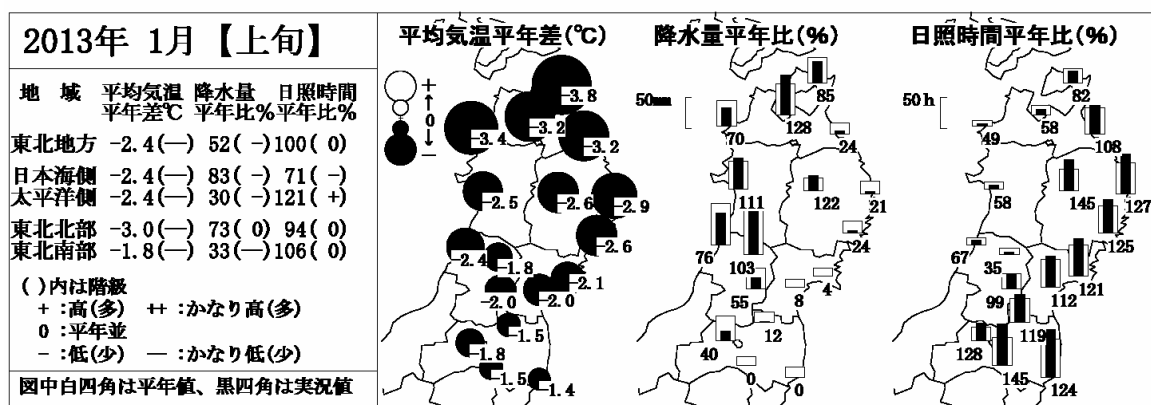
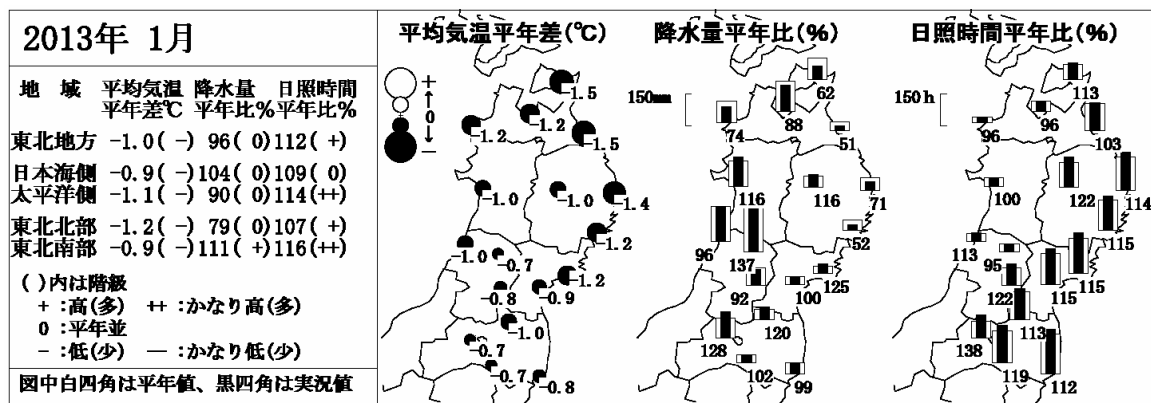
25日から26日にかけては低気圧が発達しながら北日本を通過したため、各県で大雪となり、25日は福島県と山形県で日降雪量50cm以上の所があった。29日から30日にかけては冬型の気圧配置の影響で、東北日本海側を中心に大雪となった所があった。

平均気温は平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2013 年 1 月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2013 年 1 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級			降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級	
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
青 森	-2.4	(-1.2)	—	127.0	(88)	○	23	49.3	(96)	○	242	(225)	○	99 (88) +
深 浦	-1.4	(-1.2)	—	75.0	(74)	—	24	25.7	(96)	○	153	(110)	+	45 (32) +
む つ	-2.9	(-1.5)	—	63.5	(62)	—	12	80.8	(113)	+	122	(168)	—	41 (46) ○
八 戸	-2.4	(-1.5)	—	22.0	(51)	—	5	135.0	(103)	+	49	(77)	—	19 (17) +
秋 田	-0.9	(-1.0)	—	138.0	(116)	+	24	39.8	(100)	○	171	(138)	+	68 (31) +*
盛 岡	-2.9	(-1.0)	—	61.5	(116)	+	9	143.1	(122)	+*	98	(85)	+	41 (29) +
大 船 渡	-0.4	(-1.2)	—	26.0	(52)	○	6	164.8	(115)	+*	17	(19)	○	7 (7) ○
宮 古	-1.1	(-1.4)	—	43.0	(71)	○	4	183.6	(114)	+*	35	(33)	+	21 (13) +
仙 台	0.7	(-0.9)	—	37.0	(100)	○	6	170.8	(115)	+*	55	(21)	+*	20 (10) +*
石 巻	-0.5	(-1.2)	—	43.5	(125)	+	5	190.6	(115)	+*	44	(14)	+*	17 (8) +
山 形	-1.2	(-0.8)	—	76.5	(92)	○	16	103.7	(122)	+	120	(148)	—	42 (40) ○
新 庄	-1.8	(-0.7)	—	285.0	(137)	+	26	36.4	(95)	○	281	(283)	○	175 (101) +*
酒 田	0.7	(-1.0)	—	162.0	(96)	○	24	44.4	(113)	+	105	(122)	—	38 (25) +
福 島	0.6	(-1.0)	—	59.5	(120)	+	9	149.7	(113)	+	75	(74)	○	41 (19) +*
若 松	-1.3	(-0.7)	—	122.0	(128)	+	14	108.3	(138)	+*	153	(171)	○	89 (49) +*
白 河	-0.4	(-0.7)	—	39.5	(102)	○	4	179.6	(119)	+*	56	(58)	○	34 (15) +*
小 名 浜	3.0	(-0.8)	—	52.5	(99)	○	3	212.5	(112)	+*	()	()	()	()

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+: 高い (多い) ○: 平年並 -: 低い (少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

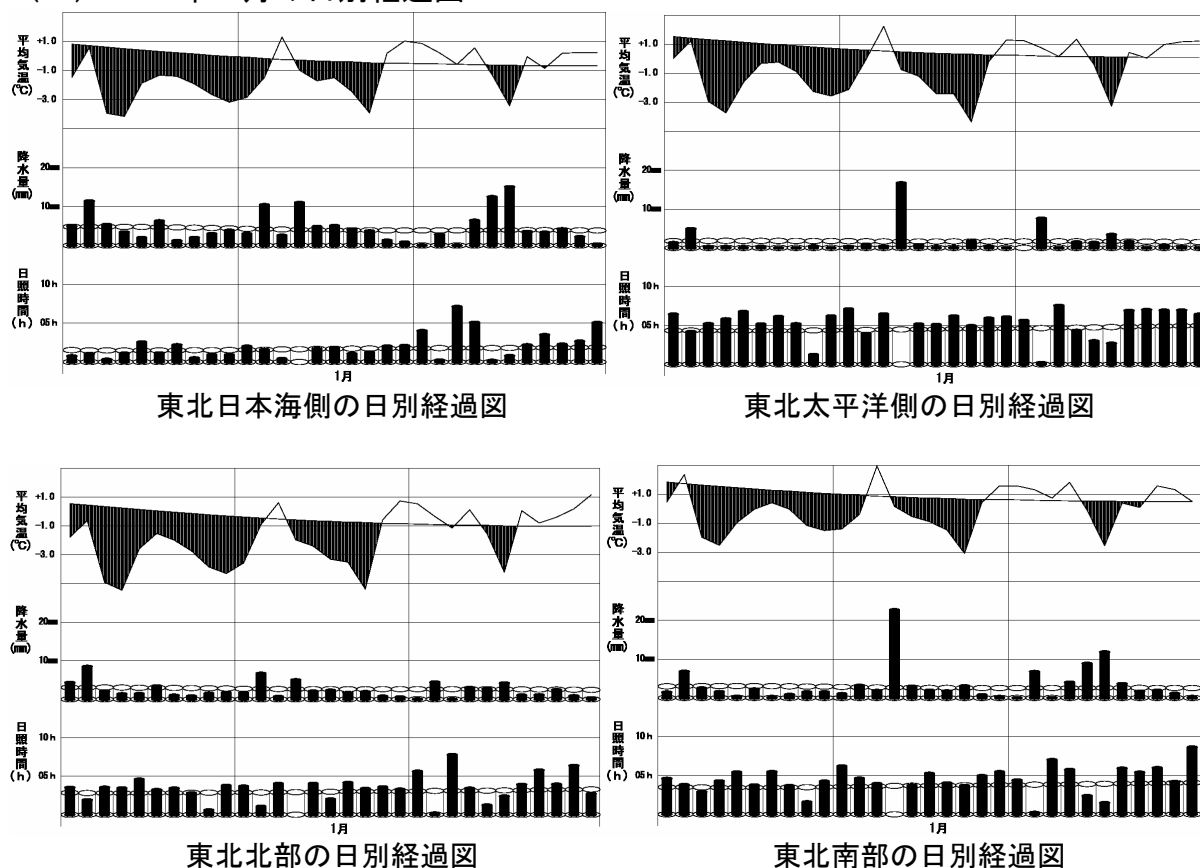
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2013 年 1 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）
気温の陰影は平年値より低いことを示す。

(6) 2013 年 1 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	若松	108.3	138	101.6 (1985)	1954	78.5

月間日照時間少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

順位	地点名	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
2	深浦	153	210 (1963)	1953	110

月最深積雪大きい方からの順位更新

順位	地点名	最深積雪 cm	起 日	これまでの最深 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
3	白河	34	15	56 (2001)	1940	15

(参考) アメダスの月最深積雪大きい方からの順位更新 (3 位以内)

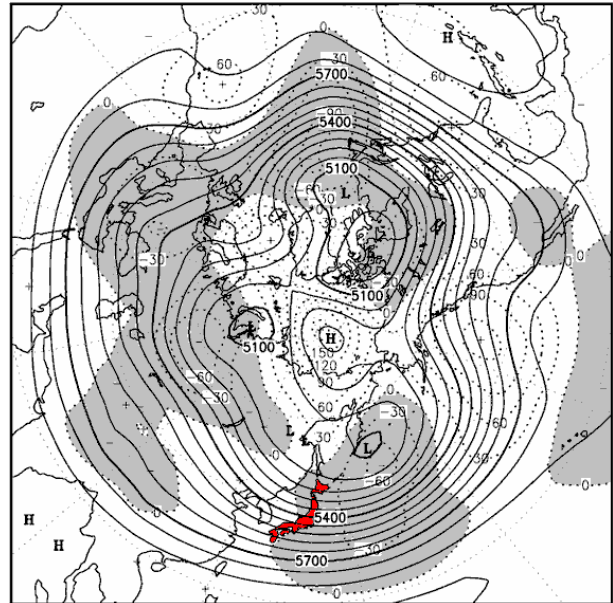
県	順位	地点名	最深積雪 cm	起日	これまでの最深 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
青森県	2	野辺地	53	19	60 (2012)	2009	///
		酸ヶ湯	408	19	429 (2012)	1980	293
	3	弘前	105	19	113 (2006)	1983	61
		碓ヶ関	88	30	132] (1982)	1980	66
秋田県	2	大正寺	112	18	115 (1986)	1980	62
		湯沢	118	30	172 (2011)	1986	73
		湯の岱	165	27	189 (2011)	1980	109
	3	鷹巣	96	30	131 (2012)	1980	57
		五城目	75	30	137 (2006)	1980	43
岩手県	1	湯田	217	26	210 (2011)	1980	143
	2	祭時	146	30	157 (2001)	1984	102
	3	北上	47	26	60 (2011)	1985	30
宮城県	1	駒ノ湯	131	27	127 (2003)	1998	99
	2	川渡	92	27	116 (2001)	1980	46
山形県	2	金山	175	29	196 (2011)	1983	101
	3	向町	180	26	201 (2011)	1984	97
福島県	1	西会津	166	26	153] (1981)	1981	78
	2	金山	185	27	204 (2011)	2008	///

(注) 値の横に] がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。平年値の///は統計期間が短いため平年値がないことを示す。

(7) 2013 年 1 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、日本付近は千島の東を中心とする負偏差に覆われた。一方、中国東北区を中心に正偏差となり、日本付近は東谷の流れとなった。

東北地方は寒気の影響を受けやすく、気温が低くなった。



2013 年 1 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。陰影部は負偏差（寒気に対応）。